

第 74 回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体 2019」セーリング競技会 天皇杯は 15 年ぶり神奈川県、皇后杯は 3 年ぶり山口県が獲得

天皇陛下御即位記念第 74 回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体 2019」セーリング競技会は茨城県阿見町の「阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場」で開催され、天皇杯（男女総合優勝）は 15 年ぶり 12 回目の神奈川県が、皇后杯（女子総合優勝）は 3 年ぶり 11 回目の山口県が獲得。

■ 3 日間で 56 レースを実施

大会終了後取り壊すのはもったいないような立派な茨城県阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場において、9 月 29 日から 10 月 2 日までの 4 日間、成年男子 3 種目、少年男子 2 種目、成年女子 3 種目、少年女子 2 種目の計 10 種目で熱戦が繰り広げられた。

大会初日は風待ちの後、南西から南の 4~8 ノットの風で 20 レース、2 日目も東から東南東の 5~10 ノットの風で 20 レース、3 日目も安定した東南東の 4~7 ノットの風で 16 レース、3 日間とも絶好のコンディションの下で、予定の 56 レースがすべて実施された。

しかし、最終日は朝から風が弱く陸上での風待ちとなり、入賞圏内にいる選手、最終レースに逆転を期す選手それぞれにとって、季節外れの暑さの中でじりじりとした時間が経過していったが、ついに D 旗が掲揚されることなく大会は終了した。

3 日目までの成績で、15 年ぶりの男女総合優勝を果たした神奈川県は、優勝こそ 1 種目であったものの、2 位が 3 種目、3 位が 2 種目など 8 種目で入賞を果たし、総合得点 101 点を獲得し、昨年の男女総合優勝の山口県の追撃をかわし男女総合優勝を果たした。この優勝は、神奈川県連による長年の地道な強化が実った結果と推察される。

男女総合 2 位となった山口県は、3 種目で優勝、3 種目で入賞と、優勝してもおかしくない成績であり、惜しくも連覇は逃したものの 3 年ぶりの女子総合優勝を果たした。

開催県の茨城県は、少年女子レーザーラジアル級で優勝したほか、3 種目で入賞を果たすなど健闘したが、悲願の男女総合優勝は果たせなかった。

■ ママさんセーラーの活躍

今国体の特徴の一つとして、成年女子、特にママさんセーラーの参加が増えるとともに活躍が目立ったことがある。

近年、成年女子種目の参加県が少ないことが課題であったが、今年は、成年女子セーリングスピリッツ級に昨年と比べ 7 県多い 33 県、レーザーラジアル級に 31 県の参加があり、その中には出産後競技に復帰したママさんセーラーも多く参加していた。

このことは、JSAF レディース委員会による国体会場でのチャイルドルームの開設など長年の環境整備によるところも大きいと思われ、セーリング競技が生涯スポーツであることの表れとも思われる。

■ 「見える」セーリング競技への取り組み

今国体では大会ホームページによる情報提供のほか、観覧艇の運航、陸上カメラやドローン映像によるレース風景の大型ビジョンでの中継とレース解説、トラッキングシステム

などセーリング関係者だけでなく会場に来場した観客にも「見える」セーリング競技に積極的に取り組んでいた。

さらに今国体は、セーリング特設会場がレースエリアに近く、出艇、着艇の際だけでなく、レースの様子も肉眼でも見ることができるといいう好条件もあり、会場に非常に多くの観客が来場し、レース観戦と応援をする風景が見られた。

また、今国体は心配された台風の影響もなく天候にも恵まれ、地元ボランティア団体による郷土料理のおもてなしやコンディショニングルームの開設などもあり、選手だけでなく観客も満足した大会だったと思われる。

今国体の開催にあたり、長年にわたり準備にご尽力いただきました阿見町実行委員会及び茨城県セーリング連盟、大会運営にご協力いただきました霞ヶ浦漁業協同組合阿見町支部、(株)ラスクマリーナ、地元ボランティア団体など関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。 (レポート／黒川重男・JSAF 国体委員会副委員長)



15年ぶりの天皇杯（男女総合優勝）を獲得した神奈川県



多くの観客の中での出艇風景



ママさんセーラーも多く参加したセーリングスピリッツ級のスタート風景